

## 令和4年度 日向市立細島小学校 自己評価及び学校関係者評価

学校経営ビジョン：生命尊重を基盤にした細島小学校ならではの特色ある教育活動を保護者や地域、公民館と一体となって推進する。

【評価基準 4段階評価 4…期待以上 3…期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する】

重点指導項目	目標及び取組 (○…目標 数字・取組)	評価内容及び結果	自己 評価	改善策	委員 評価	学校運営協議会での意見	
命を大切に する	①命の教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全児童の評定の平均が3.5以上</li> <li>1 「いのちを大切に学習」の実施(高嶺、のち教育)</li> <li>2 「いのちの大切さを考える週間」の実施</li> <li>3 「スムーズスタートの日」の実施</li> <li>4 各教科、全領域においての人権学習の実施</li> <li>5 教育相談の実施</li> </ul>	<p>【アンケート質問項目】 <b>家族や友だちから大切にされている。</b> (結果) 児童・3.6 保護者・3.8 地域・3.3 職員・3.1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 概ね良好である。長期休業前日に、担任から全児童に電話で連絡をとり、状況の把握、登校の足しをすることができた。</li> <li>・ 教育相談を実施し、児童の状況の把握ができた。</li> </ul>	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者や地域の方にも授業を見ていただく機会を設定する。</li> <li>・ 「いのちの大切さを考える週間」のさらなる改善・工夫を行う。</li> <li>・ 現在実施している教育相談については、今後も継続して実施し、児童の状況の把握に努める。</li> </ul>	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 避難訓練を繰り返し実施していることは、とてもよい。東日本震災の実際の映像を見せるのもよい学習になるのではないかと。</li> <li>○ 長期休業明け前の全児童への連絡は小規模校である本校の特徴を生かしたよい取組である。今後も継続して実施していただきたい。</li> </ul>
	②命を守る行動の定着 (地震、津波発生時の行動)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全児童の評定の平均が3以上</li> <li>1 避難訓練を毎月、様々な状況想定して実施する。</li> <li>2 外部の関係機関と連携を図り、より専門的に指導していただく機会を設定する。</li> </ul>	<p>【アンケート質問項目】 <b>地震や津波が起きたときに正しい行動ができる。</b> (結果) 児童・3.3 保護者・3.3 地域・2.7 職員・3.4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月避難訓練を実施できているので、児童の避難時の動きがよくなってきている。</li> <li>・ 市の防災推進課と連携した避難訓練を実施できた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難訓練については、今後も毎月実施し、児童の地震や津波への意識を高めるとともに、実際の行動を早めたり、自分で判断できたりするようにしていく。</li> <li>・ 今後も外部の関係機関との連携をすることで、職員だけでは足りない部分を補っていく。</li> </ul>		
進んで学 ぶ	③思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 算数科の単元テストの「思考力・判断力・表現力」で全クラス到達率85以上</li> <li>1 毎日の授業の中で説明する場の設定やペア学習、グループ学習などの学習形態の工夫(コロナ禍のため十分ではなかった)</li> <li>2 タブレットPCの活用</li> </ul>	<p>【アンケート質問項目】 <b>算数の学習で「考えて解く問題(B問題)」ができています。</b> (結果) 児童・2.9 保護者・3.0 地域・なし 職員・2.5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 算数科の単元テストの「思考力・判断力・表現力」が到達率85を越えた学年が2学年だった。</li> <li>・ 児童が式や答えの考え方の説明をする場面を設定したことで思考力、表現力等の向上が図れた。</li> <li>・ 各教科で学習形態の工夫をすることで、思考力・判断力・表現力の向上を図った。</li> </ul>	2.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も授業の中で児童の説明する場面を意識して設定する。</li> <li>・ タブレットPCを活用した授業場面の設定を今後継続的に実施していく。そのためにも職員のリテラシーの向上を図るように研修の機会を増やしていく。</li> </ul>	2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 来年度の研究は細島小の児童の実態に合わせた授業のデザインづくりを中心にした。また、学びの時間(週2日、1日15分)の効果的な運用を図りたい。</li> <li>○ 細島小の図書室は季節感もあり、読むためのディスプレイがなされている。</li> <li>○ タブレットPCを活用してよかったことは、どういふ点か。→普通に文章を書くことが苦手だが、タブレットだと書きやすい子もいる。また、ソフトを活用することで児童の意見の交流がしやすい。</li> <li>○ 人と比べるのではなく、自分がどうかということを考えさせていく。</li> <li>○ 海事施設見学会はよい活動だった。</li> </ul>
	④基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国語科の単元テストの「知識・技能」で全クラス到達率85以上</li> <li>○ 算数科の単元テストの「知識・技能」で全クラス到達率85以上</li> <li>1 「定着」、「習熟」の時間の実施</li> <li>2 「さんさんタイム」の活用</li> <li>3 花まる先生の積極的活用</li> <li>4 タブレットPCの活用</li> </ul>	<p>【アンケート質問項目】 <b>漢字や計算ができる。</b> (結果) 児童・3.2 保護者・3.2 地域・なし 職員・3.0</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語科の単元テストの「知識・技能」で到達率85を越えた2学年があった。</li> <li>・ 算数科の単元テストの「知識・技能」で到達率85を越えた3学年があった。</li> <li>・ 算数科の授業の中で「定着」、「習熟」の時間を確保し、全ての学年で実施することができた。</li> <li>・ 「さんさんタイム」で国語科と算数科に焦点をあてた取組ができた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な計算や知識が獲得できるように中間の工夫をし、全校で共有・実践する。</li> <li>・ 本年度取り組んできた「定着」、「習熟」の時間は継続して算数科の授業の中で位置付ける。</li> <li>・ タブレットPCにドリルソフトが入ったことにより、児童がすぐにドリルに取り組める環境が整った。職員のタイムマネジメントが重要になる。主題研究や校外の研修に積極的に参加し、職員の授業改善を図る。</li> </ul>		
	⑤読書習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校図書館貸出冊数 一低学年100冊、中学年50冊、高学年60冊以上</li> <li>1 図書主任、図書司書による図書館の環境整備</li> <li>2 学習部による読書の励行</li> </ul>	<p>【アンケート質問項目】 <b>進んで本を読んでいる。</b> (結果) 児童・2.9 保護者・2.4 地域・なし 職員・2.1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書司書を中心に学校図書館の経営を季節感あるものにした。</li> <li>・ 読み聞かせは感染対策を考慮しながら、できるだけ実施できるようにした。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読み聞かせについては全学年で実施できるように工夫している。学年の組合せを考えながら来年度も実施していく。</li> <li>・ 学習指導部や図書主任を中心に児童の読みたい本や職員が読ませたい本を把握し、学校図書館の図書の実装を図る。</li> </ul>		
	⑥家庭学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭学習提出率95%以上</li> <li>1 課題の工夫、提出後の対応</li> <li>・ 学習内容とのリンク</li> <li>・ 花まる先生の有効活用</li> </ul>	<p>【アンケート質問項目】 <b>家での学習(宿題)ができています。</b> (結果) 児童・3.2 保護者・3.0 地域・なし 職員・3.6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭学習の提出率は、ほぼクリアできているが、提出できない児童が固定化されている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年の発達段階に応じた課題の量を全校で共通理解し、共通実践する。</li> <li>・ 花まるサポーターを有効活用する。</li> </ul>		
	⑦いじめの根絶	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 未然防止、早期発見、早期対応に努める。</li> <li>1 悩みアンケートの実施及びその後の教育相談の実施</li> <li>2 はぐみサポート会議での全職員による共通理解、共通実践</li> <li>3 気になる児童についての情報共有</li> </ul>	<p>【アンケート質問項目】 <b>自分がされて嫌なことは、友だちにしていない。</b> (結果) 児童・3.3 保護者・3.3 地域・3.1 職員・3.2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月悩みアンケートとその後の教育相談、その結果を受けてのはぐみサポート会議を確実に実施し、児童の実態の共通理解ができた。</li> <li>・ 気になる児童については、管理職へ必ず報告をし、情報を共有することができた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 悩みアンケートを毎月実施し、児童の悩みの早期発見、早期対応に努める。</li> <li>・ 情報を共有することで、全職員で全児童を見守る体制を整える。</li> <li>・ はぐみサポート会議で気になる児童については共通理解し、担任個人で対応するのでなく学校全体で組織で対応する。</li> </ul>		
⑧思いやりの心や優しい態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全児童の評定の平均が3.5以上</li> <li>1 「特別の教科 道徳」の指導改善・工夫</li> <li>2 「ポジティブの木」の実践</li> </ul>	<p>【アンケート質問項目】 <b>全ての友だちに優しくできる。</b> (結果) 児童・3.4 保護者・3.3 地域・2.9 職員・3.3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小さなトラブルはあったが、学校全体としては落ち着いていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「特別の教科 道徳」では、児童の考えを残し、評価することで指導を生かす。</li> <li>・ 「ポジティブの木」の実践は、児童の意識化や意欲の向上につながったので、来年度も継続して実践する。</li> </ul>				

	項目	結果	自己評価	改善策	委員評価	学校運営協議会での意見
小中一貫教育に関する評価	1 グランドデザインは、自校の教職員で共通理解できている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、富島中学校区のブロック研修会の開催が遅れ、グランドデザインの提案も遅れた。その分、4校での共通理解が不十分であった。	2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>富島中学校区4校の教職員で児童生徒の課題を洗い出す。その後、課題を生徒指導実践会議等で学校が担う内容と地域及び保護者が担う内容に分けるなど組織的・機能的に課題に対応する。</li> <li>グランドデザインについては、PTA総会で保護者へ示したり、地域へ回覧したりして周知を図る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>富島中学校区のグランドデザインについては、PTA総会や地区への回覧などで周知を図るということだが、一度では十分な周知は図れない。機会がある毎にグランドデザインに触れるとよい。</li> </ul>
	2 グランドデザインは、家庭や地域に理解されている。		2.5			
	3 めざす児童生徒像実現のために、富島中学校内の学校で共通実践が進められている。		3.1			
	4 小中一貫教育の取組により、めざす児童生徒像の姿に近づいている。		2.8			